

平成17年度 三春ダム 水質対策検討会 開催

去る平成18年2月16日に、三春ダム管理所において「平成17年度三春ダム水質対策検討会（委員長 日本大学大学院総合科学研究科 野池達也教授）」（以下検討会）が開催されました。

検討会とは、三春ダムが湛水することにより、富栄養化することが予想されたことから、試験湛水以前より定期的に行われ、（現行「三春ダム水質対策検討会」は平成14年度より、以前は別名称でしたが基本スタンスは同一の水質検討会がありました。）水質対策設備の効果的運用方法、問題に対する課題等について有識者を委員に迎え意見を伺い、より良い水環境を目指すことを目的として、年1回以上の開催を継続して行っております。

今年度の検討会は、昨年と同様2部構成で行われ、第1部は現地視察とし、平成17年度より施設稼働している「三春町堆肥センター」を三春町産業建設課農林グループの渡辺主査に案内して頂きました。延床面積1,979.21㎡、鉄骨造平屋建の施設内に攪拌機と袋詰設備を設置し、三春町内の畜産農家から牛糞のみ（現在はということ）を搬入、堆肥化する施設です。なお、牛糞の搬入費用は無料ですが、製品（堆肥）を搬入量の2割は購入する約束だそうです。

説明の要所要所で委員の先生方からの質問もあり、このような施設が無く、畜産糞尿が処理できない場合、やがては河川に未処理の状態流出してしまう危険もある事を想定して質問なされていたようでした。



三春町堆肥センター 視察

続いて第2部では、平成17年の三春ダム水質保全施設の運用状況と効果の検証に始まり、新たな管理方法による藻類の繁殖抑制の可能性についての検討、また、流域での負荷削減の進捗状況について調査したもの等について、事務局から報告がありました。多くの先生方から、藻類抑制調査結果からの判断（結果は一つでも要因が複数考えられる場合の検証の必要性）として、多種の事由の考え方、目的に対する調査方法等の貴重なご意見、来年度の調査についての課題等を頂き、今年度の検討会は閉会致しました。



水質検討会の様子

「三春ダム管理所事故防止対策協議会」による 安全パトロールを実施

2月13日（月）三春ダム管理所事故防止対策協議会では、工事事故防止の徹底を目的として、工事現場の安全パトロールを実施しました。

管理所側8名、請負業者側18名で現在施工中の「三春ダム周辺整備工事」の現場の点検を行いました。

当日は、2月とは思えない暖かな陽気に恵まれ、参加者は、現場代理人から説明を受けながら、現場内各所について点検を行い、その結果を点検表に書き込んでいました。



澄みきった青空のもと、安全パトロールが行われました。



三春ダム周辺整備工事の現場点検の様子

現場点検終了後、管理所内において検討会を行い、良かった点、改善すべき点について、活発な討議がありました。引き続き、請負業者を代表して、福浜大一建設（株）、三友電設（株）の現場代理人から自社における安全管理についての発表がありました。日頃の安全管理に対する努力や独自の創意工夫、その成果等、大変興味深い内容で、参加者は熱心に耳を傾けていました。



現場点検の様子



福浜大一建設（株）安全管理についての発表

今回の安全パトロールの点検結果及び検討会での討議、発表を工事事故防止に生かし、今後も無事故で過せるよう、引き続き監督職員、請負業者のみなさんのご協力お願いいたします。



ゆきみらい2006in上越

総務係 熊谷卓也

去る2月2日から3日間行われた「ゆきみらい2006in上越」へ行って来ました。この「ゆきみらい」は毎年東北・北陸・北海道の持ち回りで行われており、今年は新潟県上越市において実施されました。シンポジウムや研究発表会を聴講し、今冬の異常な大雪に悩まされる北陸地方の現状を目の当たりにしてきました。また、一昨年の中越地震の被害を受けた小千谷市の関市長による基調講演では、震災の復旧過程での雪による影響などを興味深く聴くことができました。

来年は会津若松市において行われる予定です。

「雪国」から日本を元気にするこのイベントに足を向けられてはいかがでしょう。



平成17年度 広報担当者会議

去る平成18年2月9日～10日の2日にかけて、仙台市内において東北地方整備局管内の広報担当者会議（参加人数、事務局含めて80名程度）が開催されました。

内容は、「広報課題の事例発表、意見交換」、「広報戦略の先進事例について」、「戦術的具体的広報のノウハウ」、「ホームページのアクセシビリティ向上に向けた取り組み」等々、このスペースでは書ききれないほど盛り沢山な内容で、特に興味を抱いたのは、当三春ダムでも問題としている「リピーター」の獲得についてですが、議題の中ではHPに関するものではありませんでしたが、三春ダムでも資料館とHPのリピーター獲得にはどうしたらよいかを検討（まだ、とっかかりに過ぎませんが）しなくてはと思っていたところでしたので今後の参考にしたいと考えております。

今回の会議を経て、三春ダムの広報が如何に変わっていくか（急激には無理ですが）楽しみにして頂きたいと思います。

メダカ観察日記 Part 6

突然ですが第1部最終話「敵 襲」

水槽が1つになり、浄水器も順調に作動し、水もきれいなまま維持されて、いいことづくめでほのぼのと癒しのメダカを見ていた或る日、突然異変（確変ではありません）はやってきた。子メダカ水槽を大量の排泄物まみれにしたタニシは処分したはずなのに、水槽のガラスに小さなタニシが！「なんで？、子メダカ水槽とこの水槽の水に変わりはないはず？？、ま、小さな内に処分するか」と子タニシを除去、しか～し、3日もすると増量した子タニシ群がガラスに粘着！！、なんで？？、仕方なく再び除去。それでも、1週間後には倍増子タニシが三度襲来、子タニシ群の除去と再来のいたちごっこの始まりでした。原因は、再度産卵床にと購入した浮き草の根に付着していたものでした。水槽をよく見ると、浮き草の根に多数、下にしいてある砂利に多数、の子タニシ卵（メダカ卵と異なり薄い青色の卵、一目で分かりますよ）が、その数100や200でまみれます。新たな敵の襲来に、生き物係の面々は四苦八苦、毎朝の子タニシ除去が日課となってしまいました。子タニシ卵の根本的除去は数の多さと砂利の間隙に入ってしまうサイズのために非常に困難なものと考えられ断念。

しかし、そこに一筋の光明が、観賞魚の世話を生業としている人物からスネルホ○ホイ（商品名

なので記載できず、）なる子タニシ除去グッズが有るという情報が、早速一つ取り寄せ水槽に設置（ここで小話、本品が納入された時一人の男が言いました「これって、蛇がそろそろ捕れるの？」「スネークじゃなくてスネルですから、それにサイズだって明らかに小さいでしょ」とぼけた受け答えがありました）、翌日の朝中身を確認すると・・・、たった七匹しか捕れてないやん！つかえねー。

しばらくは朝の子タニシ除去の日課を継続しましたが、精も根も尽き果て、二日に一回、一週間に一回と間隔が長くなっていきました。

ところが、自然とはうまくできたもので或る一定量以上に子タニシ群が氾濫することはないのです。自然環境調査で学んだ様に、生息できる量のバランスは自然に調整される。そう、この水槽も自然環境として成り立っていたのでした。

水槽という閉鎖的空間に自然環境というものを再教育され、メダカを飼っていて良かったと思う生物係であります。今回を持ってメダカ飼育日記第1部は最終話となります。来春にまた、新たなエピソードが生まれましたら第二部を執筆したいと思います。

さくら湖メダカ一億匹計画、完遂まであと99,999,950匹位。長い間のご愛読ありがとうございました。





ミ〜ちゃん＆んくんのお なぜ?なに?さくら湖

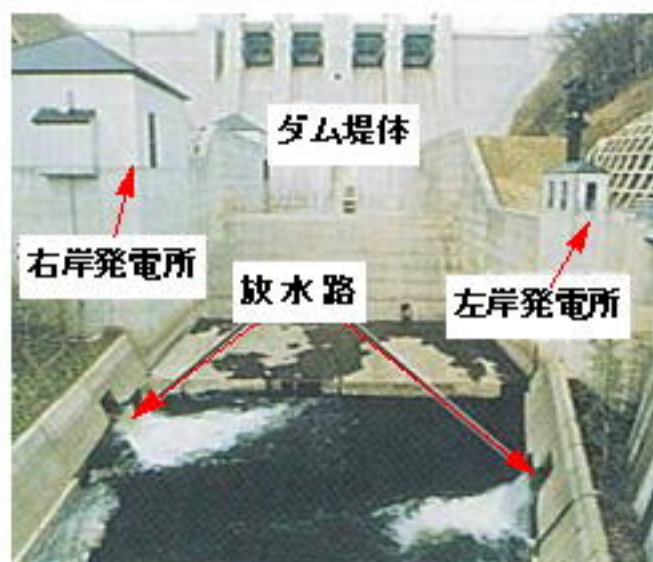


Q. ダムから水を放流するときに発電しているのですか?

A. 三春ダムには水力発電があり、ダム管理に必要な電気を発電しています。これを、「管理用発電」と呼んでいます。

発電した電気は、水を浄化する施設（浅層循環施設・深層曝気施設）や周辺の照明、管理所などで使用されています。また、余分な電気（余剰電力）は電力会社へ売電しています。管理用発電は、左岸と右岸に各1台ずつ設置しており、最大電力は、2台で約2000kwとなっており、年間約800万kwh（キロワットアワー）の発電をしています。右岸発電所は、

ダム堤体に設置されている取水ゲートからの「ダム式発電」で、左岸発電所は、貯水池からの取水ではなく、本川前ダムからパイプス管を利用して放流する「流れ込み発電」を行っています。



三春ダム管理用発電は、下流河川の維持流水の有効利用を図るため設置した小水力発電施設により発電しています。



資料館からのお知らせ

平成17年度阿武隈川上流児童図画コンクール 入賞作品展 開催中（3月下旬まで）



図画部門
特別賞
三春ダム管理所長賞
梁川町
かんの ぶやか
菅野 愛也香さん



ポスター部門
特別賞
三春ダム管理所長賞
郡山市
さくま 直登くん
佐久間 直登くん

三春ダムホームページでも入賞作品をご紹介します。



2月の見学者

- 2月22日（水）三春町立三春小学校
4年1組のみなさん（25名）
- 2月23日（木）三春町立三春小学校
4年2組のみなさん（24名）
- 2月24日（金）三春町立三春小学校
4年3組のみなさん（24名）



「三春ダム新聞」をつくるそうです。
どんな新聞が出来上がるのか楽しみです。

自然観察ステーションからのお知らせ

<星を見る会>

3月10日（金）、18日（土）、24日（金）
午後7時～9時 ※荒天中止（曇天・風雪・雷など）

— お問い合わせは —

さくら湖自然観察ステーション
0247-61-1546
三春町交流館まほら
0247-62-3837



編集後記

さくら湖の氷も溶け、暖かい日が続いています。管理所周辺やさくらの公園などを気持ち良さそうにウォーキングする方をチラホラ目にするようになりました。

そんな中、2月末日、管理所に1本の電話がありました。「滝桜の開花」の問い合わせです。まだまだ先と思っていた春も、この電話で一気に近く感じました。“はるよ来い♪はやく来い♪～”「春はすぐそこ!」と思うと、なんとなくウキウキしてきませんか?

石井

編集・発行

国土交通省
東北地方整備局
三春ダム管理所

皆様のご意見や情報の提供を
お待ちしております。

〒963-7722
福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内403-4
TEL0247-62-3145 FAX0247-62-3170
ホームページアドレス
<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/>